

公立大学法人札幌市立大学中期目標（第四期）素案（概要版）

1 法人・大学の概要

(1)開学：平成18年4月

(2)目的：学術研究の高度化等に対応した職業人の育成を行うとともに、知と創造の拠点として札幌市のまちづくり全体により大きな価値を生み出し、地域社会に積極的な貢献を果たす。

○学術研究の高度化に対応した職業人の育成

デザイン分野では幅広いデザイン能力を持った職業人を、看護分野では医療の高度化に対応する知識・技術に加え、問題解決能力を有し他職種と連携できる職業人を育成

○「知と創造の拠点」の形成

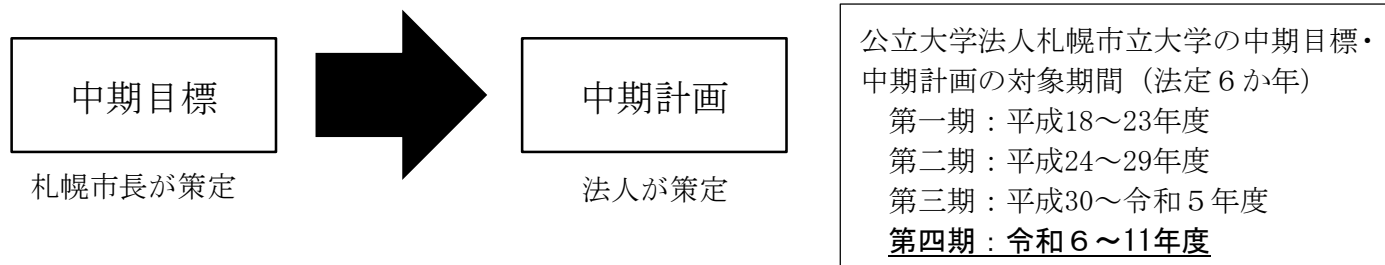
産業や芸術文化の振興、都市機能・都市景観の向上などへの貢献とともに、市民の健康保持・増進への貢献を果たす。札幌市の行政施策との連携により、地域課題の解決に取り組む。

(3)学部等の構成

	学部	専攻科	博士前期課程	博士後期課程
デザイン	360	—	36	9
看護	340	10(助産学)	36	9

2 中期目標の位置付け

地方独立行政法人法の規定により、設立団体の長が定める、法人が達成すべき業務運営に関する目標。「中期目標」に基づき、法人は「中期計画」を定める。



3 これまでの成果

第一期（平成18～23年度）

- 共通教育、学部の専門教育の双方に熱心に取り組み、広い視野を持つ人材を育成
- 公開講座の積極的な開催
- 助産学専攻科開設、大学院の設置

第二期（平成24～29年度）

- 地域志向の教育（科目）の充実
- 科研費の獲得など研究の活性化
- COC事業*の展開（※自治体と連携し地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める事業）

第三期（平成30～令和5年度）

- A I Tセンターの開設により、D×N（デザインと看護の連携）をベースにA I ・ I Tが下支えする先進的な研究や教育の質の向上を推進
- 「看護コンソーシアム」を基盤とした地域で活躍する看護職を育成

4 中期目標（第四期）（案）の概要

基本的な考え方

平成18年4月に開学した札幌市立大学は、「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を教育研究の理念として掲げ、「D×N」（デザインと看護の連携）により教育・研究・地域貢献に取り組んできた。さらに、令和4年4月からは、A I Tセンターを開設し、「D×N」にA I・I Tが下支えする先進的な研究や教育の質の更なる向上を推進してきた。

昨今は、デジタル化・脱炭素化の世界的な潮流や、グローバル競争の激化、人口減少・少子高齢化の進行など多種多様な課題が取り巻いており、今なお変化途上の予測不能な時代の渦中にある。今後も一層、複雑性を増していくことが想定される社会環境下において、普遍的知識・能力で状況を打開し解決に導く人材が重視されており、高等教育を担う大学には未来を支える人材の育成が求められている。他方、「知と創造の拠点」として、これまで培ってきた実績やネットワークを活かし、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」により分野横断的に取り組んでいく、ユニバーサル（共生）・ウェルネス（健康）・スマート（快適・先端）・人口減少緩和に関する課題解決に貢献していくことも期待されている。

こうした背景を踏まえ、第四期の中期目標においては、リベラルアーツや、デジタル分野の素養を備えた人材育成を強化していくとともに、産学官連携の中心として地域に貢献していくことで、市民が価値を実感し、誇れる大学を目指す。殊に、A I Tセンターの強みを生かし、D（デザイン）とN（看護）にA（A I・I T）を掛け合わせた「DNA」連携を推進することで、教育・研究・地域貢献の取組を更なる高みへと押し上げ、市民や地域社会へ成果を還元するとともに、広報マネジメントの強化により、国内外におけるプレゼンスを高めていく。

第1 目標期間 令和6年4月1日～令和12年3月31日

第2 教育に関する目標（第2～第5の下線部は中期目標（第四期）において新たに明記した項目や視点）

各分野における専門性・実践能力を有し、幅広い教養やA I・I Tの活用力、環境共生の知見を備え、主体性を持って、新たな価値を創造しながら未来を切り開いていくことのできる人材を「DNA」連携の推進により、育成する。

第3 研究に関する目標

- ①「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」を踏まえ、社会課題解決に資する研究を推進し、市民の実感に結びつく成果を追求する。
- ②「DNA」連携による先進的で質の高い研究を推進し、研究成果やその活用事例を積極的に公表・発信し、外部資金獲得につなげていくとともに、研究機関としての地位向上を図る。

第4 地域貢献に関する目標

- ①産学官交流、健康寿命の延伸、防災・減災の推進により、地域課題の解決等や地域コミュニティの振興に貢献。
- ②デジタルや看護分野のスキル習得プログラム等の学びなおしの機会提供や、ニーズに即した新たな価値の創造や人材育成により、地域産業の振興や地域医療の充実に貢献する。

第5 大学運営に関する目標

- ①国際化・戦略的な広報の推進による大学のプレゼンスの向上
- ②戦略的な運営、ワーク・ライフ・バランスの向上、デジタル化による業務効率化。
- ③自己点検・評価の実施、経営状況等の適切な情報公開。
- ④外部競争資金、寄附金などの自己収入の獲得。効率化や合理化等による経費の節減。
- ⑤災害や感染症等の有事に備えた施設・備品等の維持管理、脱炭素社会の実現への貢献、法令遵守・セキュリティ対策によるコンプライアンスの徹底、学生が志願しやすい環境の確保